

令和3年度支部総会「書面による総会」 議決報告

議決行使票数83票

内訳

1号議案	賛成83票	反対0票	棄権0票
2号議案	賛成83票	反対0票	棄権0票
3号議案	賛成83票	反対0票	棄権0票
4号議案	賛成83票	反対0票	棄権0票
5号議案	賛成83票	反対0票	棄権0票

以上、支部規約第8章会議第27条決議支部総会の決議は、正会員1名につき1票とし、出席者の過半数（議決権行使の代理行使を含む）をもって決するものとする。可否同数の場合は、議長の決するところによる。とあり「令和3年度千葉県隊友会船橋支部総会是一部修正し原案の通り1号議案から第5号議案まですべて可決承認されました」

御協力に感謝いたします。

誤りの御指摘・修正事項

- 1, 第1号議案4ページ枠内の「嗚呼海軍七勇殉難の跡」5月7日11月は誤りで正しくは「6月20日(土)、8月8日(土)、11月27日(金)」です。
- 2, 第2号議案7ページ収入の部枠内1行目空白は「前年度繰越金」です。
- 3, 第5号議案11ページ「令和2年度予算(案)」間違いで、正しくは「令和3年度予算(案)」です。

誤りを訂正し、お詫び申し上げます。

質問

- 1, 会勢拡大の意味がわからないので教えてください。

定年者が増加しているにもかかわらず、入会者の増加につながっていないような気がします。事業として、最先任上級曹長等の懇談に力を入れるか、歴代駐屯地最先任等の活用にも取り組んでいくべきだと思います。

解答

ご質問の通り、定年、任満の退職者がいるのに隊友会入会者が増えないの
かを検討した結果、「平成28年8月1日会勢拡大施策の実施について
(通知)」が隊友会事業として活動を始めました。全般として、県内駐屯地・
基地等の退職予定全隊員に対し、入会促進会員等をもって説明、勧誘を
行い即日入会を促進する。この際、幹部自衛官に対する勧誘強化による幹

部の入会率の維持向上に努めると共に曹士、事務官及び女性自衛官にも焦点を当て入会勧誘を強化する。「細部実施要領」「活動内容」「その他」等記載されており、それに基づき船橋支部は、「平成29年7月支部総会の後、習志野駐屯地隊員クラブにおいて各隊の最先任上級曹長をお招きし懇親会を実施しました」その後、習志野駐屯地は「災害派遣」「年間部隊訓練、検閲」「新型コロナ禍」等で懇親会を実施することが難しくなってきましたが、「災害派遣部隊に激励を行ない、習志野駐屯地援護室長に面会し退職者情報」頂き入会促進につなげております。

会員の在職中の同期や友人、祝賀会、同期会、OB会で再開した元自衛官等に、隊友会入会の勧誘をお願いします。入会資料を送付いたしますので事務局へご連絡して下さい。(事務局)

「孫たちへの手紙」の紹介

投稿者は二和・咲が丘分会長木村義忠氏「原爆投下にまつわる証言の取材です」、監修岩手県老人クラブ連合会。掲載するにあたって著作者、発行元、監修の岩手県老人クラブ連合会の許可を得ております。原文のまま掲載します。

原爆投下にまつわる証言

米国が初の原爆実験に成功したのは、1945年(昭和20年)7月16日と言われている。実験の場所は米国ニューメキシコ州のソコロ南東48キロ地点で、「トリニティ実験」と呼ばれている。この実験成功からわずか3週間後の8月6日に広島市に原爆「リトルボーイ=TNT 火薬で15キロトンに相当する爆発威力の爆弾」が投下され、約14万人の人々が一瞬のうちに爆死した。3日後の8月9日には長崎市にも原爆が投下され、約7万人が爆死した。

葛西充男氏のお話

- ① 葛西充男さんは大正15年9月生まれ93歳。昭和20年8月2日に19歳で広島市に駐屯する中国軍管区指令部隊通信隊に着任。陸軍歩兵部隊比治司令部付通信隊に勤務中に終戦を迎えた。

- ② 葛西充男さんと船橋大穴七勇碑の関係について

「船橋大穴北8-33」に、昭和17年11月27日の早朝、木更津航空基地を離陸した第702海軍航空隊の1式陸上攻撃機(乗員7名搭乗)が同地点上空で悪天候に遭遇し、墜落炎上。乗員全員が焼死の悲しい事故が発生しました。直ちに軍の憲兵が現場に駆け付けて暗幕を張り巡らし、墜落機体と乗員の遺体収容を行い、翌日4台のトラックで基地に搬送。その

後、海軍当局から極秘の書状が当時の斉藤村長に届いた。墜落現場周辺に居住する多くの村人から慰霊碑建立の要望が上がり、村長が中心となって3ヶ月後の昭和18年2月27日に建立された。その後、戦後の復興で慰霊碑の草刈清掃はおろそかになったのでしょうか、慰霊碑は草木に覆われてしまったそうです。建立から21年が経過した昭和39年、船橋市松が丘1丁目在住の元陸軍通信少尉の葛西充男さん(当時37歳)が偶然、草木に覆われた「嗚呼海軍七勇殉難の跡」の石碑を発見したのです。その後、発見者の葛西充男さんの「戦争の悲惨な体験の歴史を風化させる事無く、広く市民に知って頂くため、参拝者が慰霊碑を参拝しやすいように、国防の任務に従事された自衛隊OBの皆様で毎年6月、8月、11月に草刈り奉仕を」との呼び掛けがあり、今日まで継続しております。

③ 葛西充男さんと私と出会い

私は、昭和21年2月生まれの終戦子で74歳です。昭和39年9月から昭和53年3月末までの13年6ヶ月間、海上自衛隊で回転翼操縦士として勤務。その後、昭和54年7月から平成21年6月末まで30年間、海上自衛隊予備自衛官として勤務。そんなこともあり、退職自衛官で組織しております隊友会に、昭和53年4月入会。平成23年4月の満65歳から千葉県隊友会船橋支部の二和・咲が丘分会長を拝命し、9年前

から「大穴七勇碑」の草刈り清掃に参加し、葛西充男さんと初めて対面し今日に至っております。

④ 葛西充男さんから広島原爆投下に関する体験談を聞く。

平成30年8月1日の草刈り奉仕終了後、作業責任者の門脇茂船橋副支部長、丸山光則北部理事、顧問の福岳五郎氏と私の4名が、七勇碑発見者の葛西充男氏から、重大な話があるとのことで面談し、氏の体験談を拝聴しました。

葛西充男氏の談、

「私は、昭和20年8月2日に、広島市に駐屯する中国軍管区指令部隊通信隊に着任した。所在する陸軍歩兵部隊比治司令部付通信隊に勤務中の事です。8月5日午後2時16分頃、テニアン島基地のサイパン放送(日本語)で『米軍は最新爆弾で明日広島を空襲する。』を傍受しました。驚いた私は、直ちに作戦室に走り、上級参謀に放送内容を告げると、参謀に『それは敵の謀略情報だ』とい一蹴されました。爆弾投下当日の朝午前0時4分、四国沖の海上監視船より、「敵大型爆撃機3機、北北西の上空を飛行中なり、嚴重の警戒を要す」を受電。中国管区情報より午前0時8分警戒警報発令。午前2時8分空襲警報が発令されたが、午前7時31分に解除。午前7時30分、勤務交代後に、戸外で広島市全

景を眺め、市民が防空壕から出て、活動し始めている事を確認した。空を見上げると、紺碧の空に B29 が1機、飛行機雲の白線を引きながら旋回しているのです。空襲警報が解除されたのに、変ではないかと思いながら、講演中腹の兵器庫に午前8時10分頃到着し、2階のドアを開けた途端、稲妻の何千倍もの閃光が目に入り、頭の中をぐるぐる回る途端に大爆発音。建物がドツと倒壊した瞬間から、何が起きたか分からなくなり、体が爆風に吹き飛ばされ、地上に叩きつけられた感じで失神してしまった。右肩の激痛で気が付くと、視界は土煙で4～5メートル先は見えない。私は首と肩の激痛に耐えながら、真っ直ぐ本部に戻った。本部は木造建築のため倒壊していた。比治山から見る広島市内は、土煙で霞のようで、黒煙が4～5立ち上っているのが見えた。本部の入り口が見つかったので、降りて行った。「参謀殿、広島は怎么样了のですか？」と聞いたら、参謀も「俺たちにも分らんのだよ。最大の空襲だな。葛西少尉は大怪我しながら、よく本部に駆け付けてくれた。ご苦勞であるが、大本營に打電報告頼む。本文は部屋に置いてきた。右手をだいぶやられているな。すぐ軍医を呼ぶから頑張ってくれ」と言われた。私は通信室に入るなり、大本營作戦部に、「8月6日午前8時15分、敵機が特殊爆弾を投下、広島市は全滅、被害甚大なり。速やかに救援求なり。」と打電した。以下の証言文長いので省略します。

8月5日の午後2時16分に聞いたサイパン放送の爆弾投下の予告通り、
8月6日に新型爆弾が投下された。私は被爆し、通信隊は大破してしまっ
た。サイパン放送で聞いた予告に従い、B29の接近を察知した段階で、空
襲警報を発令して一般市民を防空壕に退避させていれば、爆死者を最小
限に出来たと思うと、とても残念でたまらないと、葛西氏は悔しがっておりました。(木村義忠)

木村義忠分会長は市立船橋北図書館で以下の本を読まれ投稿されています。

関連著書

「原爆投下は予告されていた」

著者黒木雄司

大正12年生まれ97歳

昭和20年3月から陸軍第5航空情報隊で、終戦まで情報室勤務。